

## 主催者挨拶



青少年育成青森県民会議  
会長 橋本 都

第39回青森県少年の主張大会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、つがる市長福島弘芳様はじめご来賓の皆様には、お忙しい中、本大会にご臨席いただき、まことにありがとうございます。

この大会は、昭和54年の「国際児童年」を記念し開催されてきたもので、これまで数多くの中学生が参加しております。また、参加する大人も中学生の皆さんからたくさんのことを学んできた大会であり、毎年順繰りに県内各所で開催しております。

さて、今、子どもたちは順調に育っているのでしょうか。国連の児童に関する宣言では「人類は児童に対し、最善のものを与える義務を負う」といっていますが、世界中で、貧困、武力衝突、虐待など子どもを巻き込む大きな問題が発生しています。日本でも、物があふれ豊かだといわれていますが、4年前には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が制定されました。科学技術が進展し、AI人工知能開発が進んできたその一方で、自然界では異常事態が続き、いじめのニュースにも心痛む毎日です。

このような中、持続可能な社会の構築に向け、子どもたちが夢や希望をもって生きていくことができるようにするためには何が大切か。大人はもちろんですが、未来を担う中学生の皆さんに、是非考えていただけたらと思います。

本日はたくさんの中から選ばれた8人の皆さんが、様々なテーマで発表してくれることとなっています。中学生の皆さんがどんなことを考え、どんな意見を聞かせてくれるのだろうと大変楽しみです。

また、大会に参加の木造中学校、森田中学校の皆さんにも、発表を聞きながら「自分とは違う考えがある」「自分ならどう考え、どう行動するか」というように、いろいろ考え行動する機会にしていいただければと思います。他の人の話を理解し、真剣に考えることはとても大切です。

さらに、本日は意見発表の後、「特定非営利活動法人 白神山地を守る会」代表理事の永井雄人さんに「自然と共生するマタギの文化」と題したご講演をいただくこととしています。

中学生は、小学生時代とは違い学習内容や活動範囲が広がり、広く地域の自然、歴史、文化について学んでいることと思います。スポーツや課外活動に打ち込んでいる人もいるでしょう。中学校の3年間は、多様な人々との関わりの中で自分を形づくり、心身ともに大きく成長する、人生の中でもかけがえのない時期です。この大会が、参加して下さるすべての皆さんにとってこれからの生活の充実と希望につながることを期待しています。

最後になりますが、大会参加をお引き受けくださいました校長先生はじめ教職員の皆様、開催に当たりご協力いただきましたつがる市教育委員会教育長はじめ関係者の皆様にご心より感謝申し上げます、あいさつの言葉といたします。